

## 第4学年〇組 道徳学習指導案

指導者 〇〇 〇〇

- 1 主題名 励まし合って 中学年2-(3) 信頼・友情  
資料名 「司君がんばれ」 (学校図書)

### 2 主題設定の理由

○ 本学級の児童は、素直で、いろいろな物事に対して真面目に向き合うことができる。学習では、多くの児童が、課題に対し積極的に取り組む。友達に対しても、困っているのを見ると手を貸したり、親切に接したりしようとする。しかし、体育のボール運動や集会活動でゲームをするときなど勝ち負けが出てくる場面になると、相手の気持ちを考えずに自分の感情のまま話したり行動したりし、相手の気持ちを傷つけてしまう事がある。これは、児童がまだ自己中心的で、同質なものを受け入れるが、異質なものは排除しようという心が働きがちになり、グループが違ったり、交流が少なかったりすると、相手を思いやる気持ちがまだ十分に育っていないからだと考える。

そこで、いろいろな活動を通し、交友関係を広げていったり、学校生活の様々な行事を自分達で企画し運営して、自分たちの活動に自信をもったりするこの時期に、本主題を取り上げることで、どんな友達とも仲良く助け合い、励まし合っていく気持ちを育てる事は意義深いと考える。

○ 本主題は、「どんな友達とも仲良く助け合い励まし合っていく心情を育てる」ことを主なねらいとしている。仲良く助け合うということは、友達の立場や気持ちを考え、思いやるということが根底に必要である。この友達への思いやりをもとにして信頼・友情が芽生えてくる。しかし、現実には、勝敗が絡むときなどでは、友達の非には気が付きやすいが、自分の心無い行動を客観的に見ることは難しい。友達の気持ちに気付かず、友達を責めてしまう場合がある。

そこで、友達の気持ちが理解できた時、思いやりが生まれることに気付かせることは、自分たちの生活を見直し、友達への思いやりや信頼・友情について考えることができ、大変意義深い。

○ 本資料は、主人公「ぼく」が、スキ一の苦手な友達、司君と同じチームを組み、雪上運動会に参加することになる。大会前のタイム練習で、失敗する司君を見て、「ぼく」は、司君がいるから自分のチームは勝てないのだと文句を言うようになる。しかし、司君の懸命に頑張る姿を見て、「ぼく」は、同じチームのメンバーとして「がんばれ。」と司君を応援するようになる話である。

本時指導にあたっては、「ぼく」の気持ちに視点をあて、その心の変化をハート図や役割演技を通して、共感することで、友達の気持ちを考えさせ、仲良く励まし合う心を育てたい。導入では、運動会のリレーなどの経験を思い出させ、めあて「友達となかよくはげまし合う心について考えよう。」へとつなぐ。展開1では、資料を読み、チーム発表の時の「ぼく」の顔の様子を模倣し、台詞に着目させ、「ぼく」の気持ちを考えさせる。この時、状況を的確にとらえさせるため、挿絵や言葉のカードを場面毎に提示する。また、大会の日の登場人物のやりとりを役割演技することにより、場面の状況を把握させ、「ぼく」の気持ちに共感させる。さらに、ハート図により、「ぼく」の気持ちの変化を視覚的に意識させる。そして、司君を応援するに至る「ぼく」の気持ちの変化をとらえさせ、価値を把握できるようにする。展開2では、これまでの生活を振り返り、信頼・友情に関する自分の経験を想起させる中で、価値の自覚ができるようにする。終末では、仲良く助け合うことについて教師が話をすることによって、価値に対する意識の継続を図る。

### 3 本時のねらい

どんな友達とも仲良く助け合い励まし合っていく心情を育てる。

- 4 本時 平成21年11月25日(水) 第5校時 第4学年〇組教室において

- 5 準備 拡大挿絵、言葉のカード、ハート図(児童用、教師用) 道徳ノート、効果音

6 展開

段階	学 習 活 動	教 師 の 支 援
導 入	<p>1 今までに友達とチームを組んでやったとき、うれしかったことや困ったことを発表し、本時のめあてを話し合う。</p> <p>めあて _____</p> <p>友達となかよくはげまし合う心について考えよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ めあてに対する問題意識をもたせるため、具体的な場面を発表させる。</li> <li>○ 運動会のリレー、棒引きなど友達と一緒に活動した経験を想起させる。</li> </ul>
展 開 1	<p>2 資料「司君がんばれ」を読み、司君の気持ちを話し合う。</p> <p>(1) 教師の範読を聞き、登場人物、場面の状況について把握する。</p> <p>(2) 司君と同じチームだと知った時の「ぼく」の気持ちについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ いやだなあ。</li> <li>○ 司君と一緒に滑りたくない。</li> <li>○ 司君とは別のチームだったらよかったのに。</li> <li>○ リレーにきつと負けてしまう。</li> </ul> <p>(3) タイム取りで最下位だったときの「ぼく」の気持ちについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ やっぱり、最下位だ。</li> <li>○ 司君のせいで負けたんだ。</li> <li>○ 司君はすべらずに、代わりに誰か他の人がすべればいい。</li> </ul> <p>(4) 大会の日、応援する「ぼく」の気持ちを、役割演技をして考え、道徳ノートに書き、話し合う。</p> <p>「ぼく」は、どんな気持ちで司君を応援しているでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 起きあがって追い越して。</li> <li>○ あんなひどいこと言ってごめん。</li> <li>○ 遅くてもいいから、最後まで走り抜いて。</li> <li>○ 勝敗は関係ないよ、がんばれ。</li> <li>○ ぼくたちみんなで力を合わせよう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 場面を具体的に把握しやすいように、スキー大会の様子を写真で提示した後、登場人物を紹介し、「ぼく」の気持ちを考えながら話を聞くように促す。</li> <li>○ 状況を的確にとらえさせるため絵や言葉のカードを場面毎に提示し、内容を押さえながら、話し合いを進めていく。</li> <li>○ 司君を初めから否定している気持ちを理解させるため、チーム発表の時の「ぼく」の顔の様子を模倣し、「ぼく」の台詞を言ってから考えさせる。</li> <li>○ 司君をチームから除こうとしている司君に対する否定の気持ちを明らかにさせるために、話し合い後、「ぼく」のハート図を黒板に貼る。(司君に対する否定の気持ち：赤 司君に対する肯定の気持ち：青)</li> <li>○ 臨場感を感じさせるため、場内の応援の声の音声を流しながら、司君の転びながら走っている絵を示す。</li> <li>○ 座席のまま、学級の児童に、観客の立場の演技をさせ、一人に「ぼく」の演技をさせて、気持ちを考えさせる。</li> <li>○ 「ぼく」の司君に対する気持ちの変化を感じさせるため、役割演技の後、ハート図を操作させ、道徳ノートに書き話し合う。</li> <li>○ 価値に迫らせるように、机間指導を行い、意図的指名をする。(勝敗→反省→励まし→助け合い)</li> </ul>
展 開 2	<p>3 今までの自分の生活から、励まし合えたことについて振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 体育の時、走るのが苦手な友達を応援したい気持ちになったこと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 似たようなことがなかったかいくつかの状況を示し、道徳ノートに書かせて発表させる。</li> </ul>
終 末	<p>4 教師の話を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教師の体験談を紹介し、児童がこれからの生活の中で友達と仲良くはげまし合おうとする意識の継続を図る。</li> </ul>